

令和元年度第3回平塚市地域包括支援センター運営協議会意見一覧

書面会議

今回は、コロナウイルス蔓延防止のため、委員を招集せず、書面にて意見を頂いております。以下は、各委員からの御意見を取りまとめたものとなります。

1 各委員からの意見

議題（1）地域包括支援センターの事業評価に関する全国集計結果について 資料1

<委員>

- 平成30年度との比較で、各包括支援センターが改善に取組まれ、良い結果に繋げることが出来たと思う。
- 包括支援センターの職員配置について、3職種の確保に向けてはより一層の努力をしてほしい。
- 個人情報の管理については、実施を徹底してほしい。
- 市と包括支援センターの連携体制が年々向上していると感じた。
- 地域ケア会議の開催について、自治会やゆめクラブなどにも情報発信をしてもよいのではないかと。その際、好事例などを紹介すると、イメージが伝わりやすい。
- 高齢者に関する各種被害を未然に防止するための関係機関とのネットワークの構築や被害情報、成年後見制度の情報を伝達する体制作りが必要と考える。
- 包括支援センターの体制は十分に整えられているのか。（マンパワー不足はないか。）
- 各包括支援センターの人材確保の困難さは1つのセンターで解決できることばかりではなく、現在いる人材を大切に育成することにも留意が必要と考える。
- 平塚市では、全国平均をほとんどの項目で上回るが、この状況を継続していくことが重要と考える。

議題（2）令和元年度地域包括支援センターの後期ヒアリング結果について 資料2-1, 2-2

<委員>

- 「フレイル講座」の開催について、公民館を利用している団体などに声掛けして開催しては如何か。元気なフレイル以前の高齢者から始めたら効果的ではないか。
- 養護者に対するケア体制の充実を新規取組み項目としているが、虐待の要因の中に心身のストレスが大きいと思う。
- 地域ケアのネットワーク構築は喫緊の問題であり、関係団体への更なる働きかけを願いたい。
- 各包括支援センターが、少ない人員の中、多様な相談と地域活動に参加し、実態把握を頑張っていることがよく分かった。

- 医療との連携が困難なケースが多く見られる。
- 認知症サポーター講座について、定期的に変えて行うことが大事だと思う。
- MCI(軽度認知障害)の方の把握について、包括支援センター間で評価の情報共有し、効果的な予防対策に繋がるとよいと思う。
- 概ね計画通り以上の成果をあげられており、D判定がゼロであったことは素晴らしいと思う。

議題(3) 地域ケア推進会議(令和元年度の地域ケア会議の開催状況)について 資料3

<委員>

- あまり「福祉」という硬いイメージに囚われず「よろず」的なイメージの会議があってもよいのではないか。
- 地域集会所や公民館、自治会の掲示板の利用によりポスター等の掲示をし、住民ボランティアを募集することで地域貢献者の輪が広がるのではないかと。
- 色々な会議を個々に開催してもよいが、場合によっては兼ねて開催してもよいと考えます。(包括支援センター職員が)現場にかかわる時間を多く作ってあげてほしいと思う。
- 「終末期に向けた住民への普及啓発」等は、他市の状況も参考にしてください。
- 閉じこもり高齢者に関する情報は、サロン等に提供してはどうか。
- 地域ケア会議から発見された課題について、地域の医療機関・介護事業所や地域自治会等へのフィードバックはあるのか。
- 高齢者の閉じこもりの要因や支援の好事例といった情報を取りまとめ、地域に提供してはどうか。
- 会議の日程調整の問題だが、ウェブ会議についても検討する必要があると考える。

その他

- 地域住民はもとより医療・介護関係者の中でも認知症・MCI(軽度認知障害)の理解が十分とは言えないと思う。地域における認知症の正しい理解のために、研修があればよいと思う。
- 「包括支援センター」を知らない市民が多い。「広報ひらつか」に定期的に載せることも必要と思う。
- 地域での連携を取り、活動しやすくするために、老人会、自治会と包括支援センターの連携会議を実施してはどうか。
- 今回、新型コロナウイルス感染拡大を特殊な状況下における問題として片付けず、「感染症流行により介護の現場ではどのような問題が発生したか」「どのような対策が必要であったか」「平常時から取組めることは何か」について、情報収集し、対策を検討しておく必要があると思われる。

以上